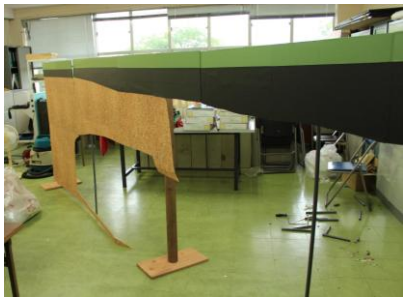
マイブンだより

平成２４年８月２７日　第５号
発行　都城市教育委員会事務局
文化財課

５月２３日から始まった明道小学校の出前授業、体験学習会もあと残すところ２回となりました。毎週１回開催してきましたが、子どもたちに見てもらい、さわってもらい、着てもらうため、担当は土器や石器などの遺物のほか、毎回たくさんの大道具、小道具を準備します。出前授業と併せて、その一端をのぞいてみましょう。

○　明道小学校第５回出前授業（６月１８日）～巨大なお墓　古墳時代のくらし～

今回は、始まる前から目を引く大きなセットがあります。担当が精魂こめて製作した大道具、地下式横穴墓です。地下式横穴墓は南九州独特の古墳で、竪穴を掘り、そこから横穴を掘って玄室（遺体を安置する場所）を作ります。これの実物大モデルを作るので、発泡スチロールの板を１０枚並べ、地中の断面の絵を描き、空洞になる部分を切り取っていきます。残った部分にプリントアウトした地層の絵を貼り付けます。出来上がってきましたが、どうやってつなぎ合わせて立てるかが工夫するところです。ここで登場したのが、縄文時代で使った竪穴住居の柱でした。これを利用して、後ろから支えて完成です。当日の様子が、下の写真です。いい出来栄えです。そして、授業では古墳時代の衣装を着用しました。これは、埴輪を参考に復元したもので、身分の高い人の衣装だったようです。男性用は、王様で大剣を下げ、髪はミズラを結っています。その王様が、お墓の説明です。お墓の中が空っぽでは、説明も力が入りません。このお墓は女性が埋葬されていたので、いつもは先生役の担当が遺体役になります。こうして、実物大の地下式横穴墓は役目を果たしました。次はどこでお披露目できるでしょうか。



さて、授業の始めに戻り、いつものように古墳時代についての問いと説明です。始まりは紀元３００年頃から、名前の由来は全国的に大きな墓（古墳）がたくさん作られたから、どんな時代だったかというと、豪族が力を持ち始

め、大和政権が成立する時代で、大陸から漢字や仏教が伝わってきています。また、須恵器と呼ばれる高温で焼き上げた灰色の硬い焼き物や鉄器が国内でも生産され始め、弥生時代にもまして、時代が大きく動いていきます。

この時代、都城には地下式横穴墓のほかにどんな古墳があったのでしょう？　現在残っているもののうち、大和政権とのつながりがあるといわれ、内陸部ではめずらしい前方後円墳や円墳など全部で２００基にもなります。このうち地下式横穴墓は、玄室が空洞であったため人骨や副葬品が数多く残されています。人骨からは、どんな顔立ちをしていたのか、男女の別、年齢、身長などが、副葬品は、鉄器や腕輪、首飾りなどのアクセサリーなどで、その人の地位などが分かってきます。このように、出土した遺物一つひとつから様々な情報を読み取ることができます。

では、どんな生活だったのでしょうか？　住んでいたのは弥生時代と同じ竪穴住居ですが、規模が大きくなります。道具も、鉄製品が使われるようになり、米づくりの道具などが発達して、効率も上がり収量も増えてきます。食べ物は、米などの穀物類のほか、魚も取っていました。これは、遺跡から魚とりに使うおもりが発見されているからです。狩りにより、獣の肉も食べていました。そして、栗もこの頃から食べられていたようです。結構グルメだったのかもしれません。服装は、男性用は先に述べましたが、女性用は担当が着用しているように、巻きスカートになっており、上着を着て帯を結んでいます。これらの衣装も、昨年度から担当が自分で縫い、作りためてきたものです。非常にカラフルですし、よく出来ていますよね。

この後、出土した土器や須恵器、鉄器、装身具の見学です。今回は、大事なものが多かったため、アクリルケース越しの見学とさわるだけになりました。また、衣装や身に着けていたくしなども好評で、特に男性用のミズラが人気で、自分の頭にのせて御満悦の児童もいました。

子どもたちの興味は尽きるところを知りません。次の体験学習会～勾玉づくり～も楽しんでもらえるとうれしいですね。